

# 表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言

一期一会



今月のテーマは一期一会。いい響きですよ、日本語って本当に洒落てますね。最近、一期一会を実感した機会ありましたか？小生はありました。10月、オーストラリアのホブソンズベイ市を訪問、実はこう見えてミスター、ロタリークラブの会員で、姉妹都市のクラブと国際交流してきました。ペナント交換のあいさつ程度とと思っていましたが、なんとディナークルーズで最高のおもてなしを受けました。

きつと英語の苦手な我々を気遣い、船上で変化する景色、船内の回遊を楽しんで会話が通じなくても共感しあえるように配慮をいただいたのだと思います。こうした主客への感激の心配りに一期一会の趣を感じました。記憶に残る一夜になり、彼らが来日する際はどんな趣向で喜ばせようか楽しみなくらいです。

さて普段何気なく使っている一期一会の意味を、小生は、「出逢いは一度だからその時は一生懸命に相手と接しなければいけない。」と書いていましたが、改めて勉強してみると、もともと茶道に由来する言葉のようです。

千利休が「茶会に臨む際は一生に一度の出会いと心得、亭主、客、互いに誠意を尽くす心構えのこと」と残り、その後江戸末期の大老、井伊直弼が茶道一番の心得として著書「茶湯一会集」の冒頭にその教えを「一期一会」と四字熟語に、いいなおすけたのである（失礼！お許しを）。すなわち「今、出会っているこの時間は二度巡ってはこない、たった一度きりのもので。だからこの一瞬を大切に、最高のおもてなしをしよう、そしてまたその人と会うこともあるけれども、その時間は二度と会えないかもしれないという覚悟で接し

よう」という意味のようです。なるほど、思っていたのと似てるようで全く違う。となると毎日顔を合わせている同僚、上司、オット！女房とも今日と明日は違うわけだから毎日が一期一会と言えるわけだ。いつも二度と会えないかもしれないとの気持で相対しよう！なんて素晴らしい：いや、それ疲れまんないや！やっぱ一期一会の教えを徹底するのは凡人では、しんどおまつせ。

さて今回の表紙はこのイチゴちゃんとお小生が、場所は思い出せない

**Mr.フィギュア** 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつも一緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシャレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。



**恒川憲一氏** つねかわけんいち  
わけんいち クリエイター。株式会社シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』（セルバ出版）。

いがどこかの道の駅でまさに一期一会？可愛い真つ赤な苺にいきなり添い寝。Mr.フィギュアはひらめいた場面に遭遇したら、すぐ行動しないと、守衛さんや店員さんが何してんの？と不審な目で寄ってきます。でも意外とみんな微笑んでくれるから人徳、いやフィギュア徳ですかね。

しかし苺って、他の食べ物と違って不思議な夢がありますよね。小生含め「いちご白書をもう一度」世代の皆さんも苺といえはシヨートケーキ、それもルーツは不二家。

今でもケーキは何にします？と聞かれると、シヨートケーキ頼みなのに、どこか気恥ずかしいので難しい名前のお洒落なケーキ頼んだりして。  
それはさておき、思えばMr.フィギュアと正論の意外な出会いも一期一会。♪あの日あの時、あの場所産経新聞さんに会えなかったらいつまでも見知らぬまま（正論ストーリーは突然に）そして今後も利休の心構えを持って大切にしていきたい。最後に日本独自のこの表現、英訳するとNow or never（今しかない）などとあるが、小生はサンキューストロベリーマッチと訳したい。では、今回もお粗末！  
**P・S** Mr.フィギュアの「立っての願いふせん」アマゾンなどで発売中！情報は伏せんでね！詳しくは「ミスターフィギュア」で検索。FBもいいねよろしく。